

世界のまちづくり紀行 in Singapore



シンガポールの概要

シンガポールは、マレー半島の南端にある約728km（東京区部より少し広い）の都市国家であり、多国企業が多く集まった世界的な金融と貿易の拠点となっています。人口は約590万人で人口密度は高く、中華系・マレー系・インド系・英国系の多民族が暮らす都市です。

シンガポールの語源はマレー語の「ライオンの街」の意味で、「マールイオン」が国のシンボルとなっています。

近代シンガポールの成立は、1819年にイギリスのトーマス・スタンフォード・ラッフルズが東インド会社の交易所を開設したことに始まり、1965年に共和国とし独立し、海運と工業を中心に自由貿易国として民主的かつ経済的な発展を遂げています。

また「City in the Garden」の国家戦略のもと、緑の多い景観に配慮した都市づくりが進められ、大変美しい街となっています。



■ トーマス・スタンフォード・ラッフルズ

シンガポールの都市計画の歴史

シンガポールの都市計画は、1823年にラッフルズの構想に基づき建築家フィリップ・ジャクソンが作成した「ジャクソン・プラン」が基礎となっています。この計画では、シンガポール川沿いに商業・行政施設、教会、公園、そして海岸線と平行にラダーパターンの幹線道路と街区道路を配置し、チャイナタウンをはじめヨーロッパ、インド、イスラム、マレーシア人の居住地を割り当てるプランとなっています。当時は今、超高層のオフィスビルやホテル・マリナベイ・サンズ、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイの土地は海でした。

またこの都市計画に合わせ建築様式も定められ、まちの統一感を出すため建築材として石や瓦の使用、規則的なファサード、そして建物と道路の間に「ファイブ・フット・ウェイ」と呼ばれる約1.5メートル幅の公共通路・歩道の設置が義務付けられています。

シンガポールの発展は、1960年ごろから始まった埋め立てにより国土面積を25%拡大させ、貿易都市として必要な港湾・産業施設の拡充、鉄道・高速道路等の交通インフラの建設、業務ビル・ホテル・中高層住宅そして大規模な公園等を整備して行ったところにあります。1966年、戦略的な土地利用計画を実施するため土地収用法が制定され、国土の大半を政府が所有、個人や企業は国有地を期間限定でリースする形となっています。

1967年、政府の「City in the Garden」の国家戦略のもと積極的に土地利用計画や景観保護が行われ、電柱のない街並み、そして街路樹や公園など緑の多い都市づくりが継続的に推進されています。



■ フィリップ・ジャクソンが作成した「ジャクソン・プラン」(1823年)



■ ファイブ・フットウェイとその街並み



■ 埋め立て前の商業・業務街（手前：フラートンホテル）



■ 埋め立て後の商業・業務街（右手前：フラートンホテル）

現在のシンガポールの都市計画

シンガポールの都市計画は「コンセプトプラン」と「マスタープラン」の2層のマスタープランで構成されており、「コンセプトプラン」は将来のシンガポールの姿を描き、国土利用・都市計画の骨格を示したもので、都市開発に向けた長期的戦略計画です。これまで1971年、1991年、2001年の3回策定されています。そしてより具体的・詳細な計画は「マスタープラン」で定め、環境分野の計画として「環境行動計画」を策定しています。

◆ コンセプトプラン ◆

コンセプトプランでは、「国民の視点と国民がどのように生活し、働き、余暇を過ごしたいのか」将来の国民ニーズに重点を置いて策定しています。そしてシンガポールが目指すべき姿を3つ示しています。

- ① 繁栄した世界的業務中心地となる活力あふれる都市
- ② 国民が認識できるユニークな個性をもつ特殊性のある都市
- ③ 活力、刺激、娯楽のある楽しい都市

《 7つの主要提案項目 》

- ① 住み慣れた地域における新しい住宅(New Homes in Familiar Places)
- ② 都市部の眺望のよい高層住宅の提供(High rise City Living—a room with a view)
- ③ 多種多様なレクリエーションの提供(More Choices for Recreation)
- ④ 新しいビジネスゾーンの設定、高付加価値産業用地の確保(Greater Flexibility for Business)
- ⑤ 世界的なビジネス中心地の形成(A Global Business Center)
- ⑥ 交通環境の整備(An Extensive Rail Network)
- ⑦ 個性・独自性の重視(Focus on Identity)

◆ 2025年マスタープラン(案) ◆

コンセプトプランに基づき2025年マスタープランを現在策定中であり、目指すシンガポールの土地利用・開発計画の4つの主要テーマを示しています。

- ① 幸せで健康な街を形作る
 - ・ 多様な願望に応えながら、より強力なコミュニティを構築する
- ② 持続可能な成長を可能にする
 - ・ 活気ある経済を維持するために進化するニーズに対応
- ③ 都市のレジリエンスの強化
 - ・ 気候変動の影響から身を守り、あらゆる危機に迅速に対応
- ④ 私たちの自然と遺産をスチュワード
 - ・ 国民の帰属意識を育み、自然資本を強化する

◆ 環境行動計画「シンガポール・グリーンプラン2030」◆

2021年、政府はコンセプトプランに基づき、環境分野の「シンガポール・グリーンプラン2030」を策定。2030年までに国を挙げて取り組むべき環境政策の包括的なプランとしています。

① 環境に優しいエネルギーの利用

- ・ 公団住宅地区エネルギー消費15%削減・全てのビルをグリーンビルに改変
- ・ 太陽エネルギーを2ギガワットピーク以上に拡大

② グリーンエコノミー

- ・ アジア、世界有数のグリーンファインズ拠点の形成
- ・ 国内のイノベーション活動を推進

③ 都市の自然環境

- ・ 年間の植樹本数を2倍とし、100万本を植樹
- ・ 自然公園の面積を2020年比で50%以上拡大

④ 持続可能な生活環境

- ・ 自転車専用路を現在の全長460kmから約1,320kmへ延伸
- ・ 鉄道網を現在の全長230kmから360kmへ延伸
- ・ 埋め立て地に送るごみを1日1人当たり30%削減

⑤ 未来の気候変動への対応

- ・ 食料自給率を栄養ベースで30%に引き上げ
- ・ 海面上昇への対応で海岸線を保護へ

シンガポールは、政府の「City in the Garden」という継続的な国家戦略のもと積極的に都市計画を行い、緑豊かな美しい街並みを形成し、また新たな埋め立てにより生み出された土地にビジネスと観光の拠点を作り持続的な発展を続けています。我が国においてもシンガポールの継続的かつ戦略的な都市計画について大いに見習うべきものがあると思います。

Singapore の街並み





■ マーライオンとホテル・マリーナ ベイ サンズ



■ ホテル・マリーナ ベイ サンズの夜景



■ セント・アンドリュース大聖堂と中心市街地（1950 年ころ）



■ 現在のセント・アンドリュース大聖堂とラッフルズ・シティ



■ ラッフルズ・ホテルの表玄関



■ ラッフルズ・ホテルの回廊と中庭



■ シンガポールの金融街



■ 港とガーデンズ・バイ・ザ・ベイ



■ ガーデنز・バイ・ザ・ベイの「スーパーツリー」高さ50m



■ 「スーパーツリー」のライティング



■ ブーゲンビリアのきれいなエスプラネード橋



■ ハイウェイの街路樹として多くみられるレインツリー



■ 緑豊かな中心市街地の街並み（ニコル・ハイウェイの沿道）



■ アートサイエンスミュージアム周辺の庭園



■ マーライオン公園周辺の街並み



■ ラッフルズ・シティ・コンベンションセンターとエスプラネード・シアター



■ シンガポールの旧埠頭 クリフォード・ピア



■ チャンギ空港の商業施設ジュエルにある巨大な滝「レインボルテックス」



■ チャイナタウンの街並み



■ カントン地区の街並み 彩カラフルなプラナカン・ハウス



■ シンガポールの高層住宅街



■ シンガポールの高層ビル街



■ 将来の都市開発 ※出展：シンガポール都市再開発庁